

●文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)

朗読コンテスト(主催：文京区 主管：跡見学園女子大学)

◆本選 観覧者募集
録音審査通過者(一般の部・青少年の部 計16人)が、課題作品を朗読します。

日 時：令和2年11月15日(日)13時～16時

会 場：跡見学園女子大学プロッサムホール(大塚1-5-2)

定 員：100人(抽選) 観覧料:無料

申 込：応募はがき、FAX、メールに「朗読コンテスト観覧希望」郵便番号・住所・氏名・観覧人数・電話番号を明記し下記へ。締切は10月23日(金)必着。

問合せ：跡見学園女子大学文京キャンパス事務局朗読コンテスト係
〒112-8687東京都文京区大塚1-5-2
TEL 03-3941-7420 FAX 03-3941-8333 E-mail d-chiiki@atomi.ac.jp

●アカデミー推進課文化事業係

十八代宗家宝生英雄氏生誕100年

令和2年度文京区企画展「能～ぶんきょうで生まれた宝生能楽堂～展」(仮)

宝生会に協力を得て、会所蔵の能面や装束など20点前後の貴重な資料を公開します。あわせて友好交流都市である金沢市の協力を得て、加賀宝生の歴史等をパネルで紹介いたします。

会 期：令和3年2月13日(土)～20日(土)午前10時～午後6時

会 場：文京シビックセンター1階 ギャラリーシビック(春日1-16-21)

入場料：無料

主 催：文京区

協 力：宝生会・金沢市

※関連講演会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、冬頃に文京区公式チャンネル YouTubeにて、講師の宝生流二十代宗家・宝生和英氏による講演動画の配信を行います。詳細は区報にてお知らせします。

問合せ：アカデミー推進課文化事業係
〒112-8555東京都文京区春日1-16-21
TEL 03-5803-1120



※新型コロナウイルス感染症防止対策のため、展示、事業の日程及び内容に変更・中止が生じる場合があります。最新情報は、ホームページ・区報にてお知らせします。

令和2年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

令和2年(2020)10月2日発行

編集・発行：文京区アカデミー推進部アカデミー推進課
文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)
〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29 TEL 03-3818-7221
https://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/

印刷物番号 D0120011

●森鷗外記念館

特別展「森家の歳時記—鷗外と子どもたちが綴った時々の暮らし」

鷗外の日記や書簡、鷗外の子どものたちの随筆をたよりに、観潮楼(現・当館)に暮らした森家の年中行事(川開き、避暑、菊人形、クリスマスなど)を紹介します。また、文業や公務に奔走する鷗外の日々、鷗外作品に描かれた季節を展覧します。

会 期：令和2年8月8日(土)～11月29日(日)

休館日：10/27、11/24

観覧料：500円

※11/1開館記念日は、展覧会観覧者全員にオリジナルポストカードをプレゼント。



観潮楼縁側にて(二)婦女界12巻9号 大正4年9月掲載
左から長女 茉莉(12歳) 三男 類(4歳) 次女 杏奴(6歳)



伊藤晴雨(明治世年頃の団子坂)文京ふるさと歴史館蔵
秋の風物・菊人形の名所だった団子坂。森家も家族で見物に出かけた。(期間限定展示)

コレクション展

「拝啓、森鷗外様—鷗外に届いた手紙」

Part.1では、鷗外宛の年賀状から、墨書で書かれたシンプルな賀状、美術家の華やかな賀状などを紹介します。

Part.2では、鷗外宛書簡と関連資料から、主宰雑誌に関する内容や、鷗外への原稿依頼など、鷗外の文業の一端を人物交流と共に紹介します。

会 期：令和2年12月4日(金)～令和3年3月28日(日)
Part1 令和2年12月4日(金)～令和3年1月24日(日)
Part2 令和3年1月27日(水)～3月28日(日)

休館日：12/22、12/29～1/3、1/25、1/26、2/24、2/25、3/23

観覧料：300円 ※1/19(火)鷗外誕生日は無料観覧日



鷗外 明治25年



正岡子規筆鷗外宛年賀状 明治34年1月1日消印

コレクション展同時開催 文の京ゆかりの文化人顕彰事業コーナー展示「巖谷小波」(仮)

令和2年に生誕150年をむかえた巖谷小波と鷗外の交流について書簡を中心に展覧します。

問合せ：文京区立森鷗外記念館
〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4
TEL 03-3824-5511 https://moriogai-kinenkan.jp
開館時間:10時～18時(最終入館17時30分)
※中学生以下、障害者手帳提示の方と介護者1人は観覧料無料

●展覧会関連イベント等の開催については、文京区立森鷗外記念館HPでお知らせいたします。

※ふるさと歴史館・森鷗外記念館 相互割引のお知らせ
●歴史館入館券、友の会会員証、歴史館パンフレット(押印あり)提示
→森鷗外記念館観覧料が2割引
●森鷗外記念館観覧券、鷗外バス提示→歴史館の入館料が団体料金適用



令和2年に記念の年を迎える
主なゆかりの文化人

- 跡見花蹊 — 画家・教育者 [1840-1926] 生誕180年
- 巖谷小波 — 文人 [1870-1933] 生誕150年
- 大下藤次郎 — 画家 [1870-1911] 生誕150年
- 大塚楠緒子 — 文人 [1875-1910] 没後110年
- 大和田建樹 — 文人 [1857-1910] 没後110年
- 嘉納治五郎 — 教育者・柔道家 [1860-1938] 生誕160年
- 熊谷守一 — 画家 [1880-1977] 生誕140年
- 小泉八雲 — 作家 [1850-1904] 生誕170年
- 幸田文 — 作家 [1904-1990] 没後30年
- 小金井喜美子 — 翻訳家・作家 [1870-1956] 生誕150年
- 西条八十 — 文人 [1892-1970] 没後50年
- 渋沢栄一 — 実業家 [1840-1931] 生誕180年
- ジョサイア・コンドル — 建築家 [1852-1920] 没後100年
- 田山花袋 — 文人 [1871-1930] 没後90年
- 鳥居龍蔵 — 考古学者 [1870-1953] 生誕150年
- 長原孝太郎 — 画家 [1864-1930] 没後90年
- 中村岳稜 — 画家 [1890-1969] 生誕130年
- 半井桃水 — 作家 [1860-1926] 生誕160年
- 仁科芳雄 — 物理学者 [1890-1951] 生誕130年
- 馬場孤蝶 — 翻訳家・随筆家 [1869-1940] 没後80年
- 藤岡作太郎 — 文人 [1870-1910] 生誕150年
没後110年
- 宝生九郎重英 — 能楽師 [1900-1974] 生誕120年
- 宝生英雄 — 能楽師 [1920-1995] 生誕100年
- 森於菟 — 医学者 [1890-1967] 生誕130年
- 森志げ — 小説家 [1880-1936] 生誕140年
- 山田美妙 — 小説家 [1868-1910] 没後110年
- 吉田博 — 画家 [1876-1950] 没後70年
- 和辻哲郎 — 哲学者 [1889-1960] 没後60年



22歳頃の嘉納治五郎師範 (文京ふるさと歴史館所蔵資料から抜粋)



講道館前の銅像(撮影協力:講道館)

様々な分野の文化人が足跡を残した文京。それら文化人を顕彰し、文京区の多様な文化的資源を広く発信します。今年度は、アジア人初の国際オリンピック委員会委員となった講道館柔道創始者の嘉納治五郎などを顕彰します。

【文京ゆかりの教育者】生誕160年

嘉納治五郎

【かのう・じごろう】(1860～1938) **教育者・柔道家**

教育者として

嘉納治五郎は万延元年(1860)に、摂津国御影村(現在の兵庫県神戸市東灘区御影町)の神官の家に生まれました。明治3年(1870)、父の明治政府への出仕に伴い上京し、育英義塾などで英語を学び、同7年に官立外国語学校、翌年には開成学校に入学しました。明治10年には開成学校が帝国大学に編入され、同14年に政治学と理財学を修めた後に専門課程に進み、同16年に審美学と道義学も修めています。帝国大学を卒業した年に華族学校(現在の学習院大学)の教師となり、後に教頭も務めました。当時の華族学校は官立で、嘉納は諸外国の教育制度などを見分するために国費留学し、明治24年の帰国後、第五高等学校(現在の熊本大学教養学部)の校長を経て第一高等学校(現在の東京大学教養学部)校長、次いで東京高等師範学校(後に東京教育大学、現在の筑波大学)の校長となりました。東京高等師範学校の校長としての在職期間は、途中、2度の任期切を含め、明治26年から大正9年(1920)までの長きに亘りました。在職中は、日本人初のオリンピックマラソンランナーとなった金栗四三なども指導しています。郷里の神戸では、私立の難関校として知られる灘中学校(現在の灘高等学校・中学校)を創設しています。また、複数の高等女学校の教員養成機関の講師としての任期も長期間に亘っています。教育者として、人材の育成に尽力したことは、良く知られています。

柔道師範として

弱冠15歳で官立外国語学校に入学し、開成学校を経て帝国大学を卒業、24歳で教師になるなど、自他共に英才として認められた嘉納ですが、幼い頃は虚弱体質じくゑいのゆゑ忸怩たる思いを抱く事も多かったと述懐しています。その克服を目的に二つの流派の柔術を学び、明治16年に24歳で自身が工夫を加えた柔道を創始、講道館を創設します。下谷区稲荷町(現在の台東区)の永昌寺で産声を上げた講道館は、稽古の騒音と振動で寺からの苦情を受け、移転します。現在の文京区域では、真砂町から下富坂町、大塚坂下町、水道橋、春日町と移転し、現在に至っています。警視庁主催の武道大会では講道館の選手が他の道場の選手を席巻し、後に警察や海軍などの訓練の正式課題として採用されました。この間、明治38年に講道館は財団法人化し、理事の一人に若槻禮次郎、監事の一人に渋沢栄一と、政財界の有力者を迎えています。嘉納は華族学校を皮切りに、校長を務めたすべての学校で学生に柔道を指南しています。嘉納の柔道の稽古を目の当たりにしたラフカディオ・ハーン(後の小泉八雲)は、著書『東の国から』で、柔道の神髄を絶賛する記事を掲載しています(著作中での記述は“柔術”)。講道館では、明治35年前後に女子を入門させており、大正15年(1926)に大塚の開運坂道場に



灘高等学校・中学校内の銅像
(撮影協力:灘高等学校・中学校)



占春園内の銅像
(撮影協力:筑波大学)



日本オリンピックミュージアム敷地内の銅像(撮影協力:日本オリンピック・パラリンピック協会)



上野公園内のグラント將軍觀樹碑
(撮影協力:東京都公園協会)



嘉納治五郎生誕地記念碑
(神戸市東灘区)

女子部を創設する以前から、女性の柔道教育にも積極的に取り組んでいたことも知られています。文京区大塚の区立教育の森公園の一角には、つくば市に移転する前の東京教育大学が所在していた縁で、現在でも、筑波大学・大塚キャンパスや附属小学校が置かれています。ここは江戸時代には陸奥国守山藩邸があり、藩邸内には鶯の名所で名高い庭園「占春園」がありました。跡地には現在も、「占春園」公園が設けられ、園内には嘉納の銅像があります(文京区大塚3-29-1 開園時間:4～9月は8時～19時、10月～3月は8時～17時)。



嘉納治五郎別荘跡・天神山緑地公園
(我孫子市緑1-2281-5)

国際人として

講道館創設後間もない明治17年に、嘉納は実業家の渋沢栄一が主催したアメリカ合衆国グラント將軍の歓迎会で、“柔道”の演武を披露しました。これが今日、全世界で80万人の競技人口を誇る柔道の国際化の端緒です。嘉納は、“講道館四天王”と呼ばれた愛弟子達を海外に派遣し、柔道の海外普及に積極的に努めました。その一人、山下義徳はアメリカ合衆国第26代大統領セオドア・ルーズベルトの個人的な師範代となり、合衆国海軍で柔道の師範代にもなっています。また、初期の講道館で柔道を学んだ英国人バートが帰国後にバーツ道場を開いた事で柔道に接した英国人も多く、『シャーロック・ホームズ』シリーズで知られるコナン・ドイルも、その一人です。ギリシア系アイルランド人で、来日後に松江師範学校の英語教師となったラフカディオ・ハーン(小泉八雲)も柔道を国際社会へ紹介する契機を担った一人です。第五高等学校在職中に松江師範学校(現在の島根大学)の英語教師として評判の高かったハーンを熊本に招聘したのは、他ならぬ嘉納治五郎本人です。近代オリンピック競技会を創設したクーベルタン男爵と知己を得た嘉納は、自身も海外へ赴き、諸外国で演武に努めました。こうした活動が結実し、嘉納はアジア人として最初の国際オリンピック委員会の委員に任命されました。これまで講道館や筑波大学などのゆかりの場所に、和服姿4体、柔道着姿1体の銅像がありましたが、日本オリンピックミュージアム(新宿区霞ヶ丘町4-2)に設置された第6体目の銅像は、燕尾服にシルクハット姿で唯一の洋装です。日本が国際社会へ船出した時期に、得意の英語を駆使して国際人(コスモポリタン)として活躍した嘉納の姿を偲ばせるものです。

※嘉納治五郎を顕彰する展示や関係資料を所蔵する施設(開館時間や休館日などは、直接、お問い合わせ下さい。)

■講道館柔道資料館・図書館

東京都文京区春日1-16-30 TEL03-3818-4562

■郷土資料室・嘉納治五郎記念コーナー(神戸市御影公会堂内)

兵庫県神戸市東灘区御影石町4-4-1 TEL:078-841-2281

■筑波大学ギャラリー

茨城県つくば市天王台1-1-1 TEL 029-853-7959

※嘉納にゆかりのある機関で、来年度中に開催予定の展示会

■学習院大学史料館

東京都豊島区目白1-5-1 北2号館1階 TEL:03-5992-1173

「令和3年度春季特別展 学習院とスポーツ」会期:令和3年3月下旬～5月頃を予定

休館日:日曜・祝日 入館料:無料 ※詳細については、学習院大学史料館ホームページ等をご確認下さい。



文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内・参加者募集

●文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)

歴史講演会「嘉納治五郎師範と女子柔道」(仮)

講 師:真田久氏(筑波大学教授)

日 時:令和3年1月23日(土) 14:00～16:00(開場13時半)

会 場:文京区男女平等センター研修室A(文京区本郷4-8-3)

対 象:高校生以上

定 員:30人(超えた場合は抽選)

参加費:無料

申 込:往復はがき(1枚2人まで)に「1/23歴史講演会」・全員の住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号と返信用にもあて先を明記して、文京ふるさと歴史館まで。令和3年1月8日(金)必着。



史跡めぐり「治五郎さんぽ～嘉納治五郎ゆかりの史跡をたどる」(仮)

文化人顕彰事業で取り上げている嘉納治五郎に関連した、文京区内の地を訪ねて歩きます。文京区の歴史・民俗等について、文京ゆかりの文化人が過ごした時代背景や功績を考えながら、区内史跡を探訪します。案内は、「文京ふるさと歴史館友の会」の「文京まち案内ボランティア」が担当します。日時・コース等は決まり次第、区ホームページ等でお知らせします。

行 程:文京区内、約3km程度

ガイド:文京ふるさと歴史館友の会「文京まち案内」ボランティア

対 象:高校生以上

参加費:行事傷害保険料及び入館料・拝観料等

特別展「コンドル博士と岩崎家四代—101年目の和魂と洋オー—」(仮)

日本近代建築界の父とよばれる文京ゆかりの建築家、ジョサイア・コンドル。令和2年6月21日に没後100年を迎えたジョサイア・コンドルを顕彰し、多芸多才の人としても知られるコンドル博士の日本庭園研究の成果や、三菱財閥創始者、岩崎家との関わりについて紹介します。

会 期:令和3年1月30日(土)～3月14日(日)※予定

会 場:文京ふるさと歴史館 地下1階企画展示室

入館料:300円(20人以上の団体210円)

特別展記念講演会「ジョサイア・コンドルの日本庭園観」

講 師:藤井英二郎氏(千葉大学名誉教授/元・日本庭園学会会長)

日 時:令和3年2月13日(土) 14:00～16:00(開場13時半)

会 場:文京区民センター3A会議室(文京区本郷4-15-14)

対 象:高校生以上

定 員:100人(超えた場合は抽選)

参加費:無料

申 込:往復はがき(1枚2人まで)に「2/13特別展講演会」・全員の住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号と返信用にもあて先を明記して、文京ふるさと歴史館まで。令和3年1月29日(金)必着。



問合せ:文京ふるさと歴史館 〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29

TEL 03-3818-7221

開館時館:10時～17時

休 館 日:毎週月曜日と、祝日にあたる月曜の翌日および、11/24(火)、1/12(火)

上記以外の休館日:【全館燻蒸】12/26(土)、27(日)、【年末年始】12/28～31、1/1～4

※中学生以下・65歳以上・友の会会員、「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳を含む)」「精神障害者保健福祉手帳」「戦傷病者手帳」提示の方と介護者1人は入館料無料

※新型コロナウイルス感染症防止対策のため、展示、事業の日程及び内容に変更・中止が生じる場合があります。最新情報は、ホームページ・区報にてお知らせします。